
カオスにも程がある大破壊後

折れた砲塔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カオスにも程がある大破壊後

【Nコード】

N1350Y

【作者名】

折れた砲塔

【あらすじ】

大破壊後の世界で集落に引きこもりながら生活する。偶に外に出てもやっぱり車の中に引きこもる。そんな一人の転生者の生活録です。

かなり不定期かつ駄文です。

一話目（前書き）

やって見たかったから投稿。
後の黒歴史である。

一話目

「おう、おっさん。今日のお勧めは鶏肉かい？」

「悪いな、今日は魚料理なんだ。トレーダーが珍しいの持ってきてくれてね」

「うーん、汚染合成肉じゃないから良いんだけど、余り酒には合わねえんだよな。偶には汚染されていない鳥がツマミで食べてえな」

「今日は無いけど明日なら用意できるよ。全く、この世界での最大の贅沢を軽く言ってくれるな。まあ、そんな事も言えるのもアンタ等が守ってくれる地下プラント様様だよな」

「全くだ！お陰でやり甲斐のある仕事も有るしな。ハッハッハ」

「精々俺と地下プラントをシッカリ守ってくれよ。その為ならお通し位タダで出してやるからな」

「安心しろい、衣食住確りあるこの仕事は気に入っているんだ。俺だけでなく仲間も皆同じ気持ちだぜ。だからぶつとびハイも序でにタダで出してくれよ」

「余り調子にのるなまったく。まあ今日は守ってくれたしつと、ほらよ焼きアメーバだ」

「お、太っ腹だねー。こりやお勧めは相当いいもんだな、期待し

てるぜ」

マスター生活も随分と板についてきた気がするな！。

この狂った世界に送り出されてもうすぐ一年、最初はどうかと思っただが今は随分と馴染んできた様な気がする。

運送中に事故で崖から転落をし、死を実感して「ああ、次の人生は健康な体になりたい」と思いながら意識を失い……

気が付いたら素っ裸でカプセルの中に横たわってた。

最近の医療技術スゲーとか思いながらこっからどうやって出るんだと悩んでいたら、突然カプセルが開いた。とりあえず外に出て下着を探したら、部屋には大型のパネルとコンソール、それに手書きのノートが一冊あるだけだった。

下着が欲しくてナースコールしようと思ったらそれらしいのは存在しない。ベットの中か？とまたカプセルの中に入ると突然閉まりだし、いい歳したおっさんが裸で喚くという新しい黒歴史を生産するハプニングにも見舞われたが、とりあえずシーツを体に巻き裸か

らは脱却した。

外に出ようにも扉はロックされたままなので出れないし、そのうち誰か気付くと思い手書きのノートを見てみた。ノートの中身はなんとというか……「ありえねー、嘘だろオイ」と読みながら何度連呼したか解らないほどの内容だった。

曰く、神様のミスで殺した事。転生しか方法がなく別の世界へ送った事。強い体を望んでいたから該当するモノにした事。特典として生きられる環境の所に送った事。忙しいのでこの形式を取ったとの事。この世界の事。今の状況の事。

まあ、死んでしまった事は諦めるとして、健康体も望んでいたからむしろ有り難い。とりあえずいじり方が頭に入っていたのでコンソールをいじって見ていたら、おっそろしい者が見えたのと同時にこの世界が解かったよ。しっかしなあ、いくらなんでもこの世界は無いよ神様……なんでよりによってこの世界なんだ……

なんでメタルマックスのゴメス山賊団やバイアス・グラップラー
とクラン・コールドブラッド、それにメタルサーガのG O R O ' s
とミュート族と一緒にヒヤッハー！！やってんだよ！！

メタルマックスとメタルサーガが一緒になった世界ってカオスに
も程があるだろオイ！！

絶対に第二の人生は早死確定だよ!! 誰か助けて下さい!!

二話目（前書き）

昨日投稿して又投稿。

ネタは有っても文才は無い。

メタルマックスは略称MM、MM2、MM3

メタルサーガは略称MS、MS2、MSNFで行きます。

二話目

「この世界で生きられる自信が全くねえよ……」

外の映像を確認して改めて思った。いや、なんで敵方集団の混成部隊が形成されてるのかもわかんねえけど、よりによって襲っているのが賞金首扱いだったスナザメ（MM2 / 3）やインペイラー（MSNF）の群れなんてお前等強過ぎるだろ！！って突っ込みまったし。

とりあえず神様が書いたノートを再度読みなおして今の状況を確認したところ、今いる施設内なら安全であるとの事なのでコンソールを又いじくって、この世界の事や周辺状況を確認して見る。

メタルマックスやメタルサーガの世界ならばアレがいるのかの確認しないといけないだろうと、まず始めに今現在までの世界情報の記録を見てみた。

記録によるとこの施設はノアシシステムに汚染されていないことが確認され、またノアの反応も無いことが判明した。つまりMM1よりは後の世界だということが解かった。とりあえず施設の暴走は無いものと思われる。

良かったー、本当に良かったよー。ノアシシステムに汚染されてそのまま抹殺されたなんてせっかく命拾ったのに意味ないし。

次に現在位置と地図の確認を行った。現在はビルの地下深くに有

る生産プラントの中央管理室らしい。どうやら神様の特典で作られた原作には無い施設であるという事らしい。ヘルプの項目に神様からの文章書きが入っていた。他にも神様謹製の施設が複数有ると事らしいが外の世界がヤバイので此処から出る気はなく、とりあえずほっとく事にした。

世界地図は全部表示されているのではなかったが、一部表示でも施設周辺や他の地域も確認できた。どうやらMM3の川から西側と北側しか表示されないが、46億年タートルトレーダー西の廃墟群のビル地下が今の位置らしい。って合わせただけで画像が出るってすごいな。

他の地域も確認出来ないか弄ってみたところなんか見たこと無い施設を発見、マップ北西のデスベガスより北に橋が掛かっている。確かここが北限だからなんかおかしいとマップを更に北に合わせて確認してみた所、MMで見たこと無い地形が見られたって……

なんでMSNFのグレートウォールに繋がってるの？しかも賞金首のシルバーボア(MSNF)が群れでハンター襲ってるし！！

あ、戦車吹っ飛んだ。

本当にこの世界はヤバイわ、どうやってこれから生活しよう。

とりあえず現在の状況と位置は確認したから、次は周辺の確認と施設を調べ終わってから考えるか。あと服も探さないと。

三話目（前書き）

3日連続投稿。

明日は夜勤だから投稿出来無い。

文才と記憶力が欲しい。

主人公の名前は少し先。

携帯のMSはやってないので登場しない予定。

三話目

「アレはハンターが哀れすぎるわ……」

映像を見てしみじみと思った。戦車って山なりに吹っ飛ぶものなんだって……

いやオカシイよね！！絶対おかしいよ。何十トンも有るMBTが山なりに飛んで行くななんてありえねえよ！

絶望感を増加させた世界地図の確認作業を終わらせてから一息ついて、嫌な予感がすっごいするけど周囲の状況を確認に入ろう。そうしないとこれから先のことも考えられないし。

グレートウォールに合わせていたカーソルを現在位置周辺に合わせて様子見する。ビルの廃墟が立ち並んでいるが、確かこの廃墟って唯の瓦礫群だった気がするけどまあいいや、どうせ神様特典なんだから気にしない方向で行く。

一棟のみ単独で建っている施設が入ってるこのビル周辺にモンスターは今は居ない。次に比較的ビルの痕跡が残ってる向かいのビルを確認する。上部の崩れてる部分にいていさつUFO（MM、MM2、MM3）が3体ほど居るが他は見られない。

なんだ余りいないじゃん、ていさつUFOならすぐ逃げるし問題

ないじゃん、と思いつつ向かいのビルの左側の瓦礫に合わせてみた。

うん、さっきの気持ちを返してくれ……

スローウーカー（MM3）が十体くらいで日向ぼっこ中でやんの。あと名前忘れたけど掃除機と蛇の間の子（バキウムマンバMM3）が五体位寝てるし、更にびんかんバニー（MS）がびんかんバニー（MM2）に跨って複数走る回って居やがる。こりゃ真の意味で裸一貫装備無しの俺は外には出れんな。

とりあえず外に出る考えは放棄して、今現在居る施設について調べよう。

生産プラントで有ることはさっき軽く調べて分かったけど、具体的に何を作っているのかも調べないといけないな、それに中央管理室内に有る物も調べないと。ということでは解らないけど使用方法が頭に入っているので調べてみた。

まずはプラントについて調べたけど、どうやらこの施設は食料品及び嗜好品生産プラントだった。水、穀物、野菜、魚、食肉、調味料それに酒。更には戦闘糧食まで生産して有る。神様特典スゲーよこれ。しかも地下水の汚染除去もしているらしく食料に汚染が全く無し。

ノートに書いてあった生きられる環境の所に送ったの理由が解かったよ。

次にプラント内の就業員施設について調べる。どうやら中央管理室内のカプセルはサイバーウェア用調整カプセルとの事だ。つまり俺の体はサイバーウェアだということになる。設備の使用方法が解ったのも納得だしノートにあった強い体って言えばその通りなんだが、実際問題としてどれ位強いんだろう？賞金首のレッドフォックス（MS1）や仲間キャラのアルファ（MS1）と同じ体だけど、生産プラントに有るって事は戦闘用じゃ無さそうだしな。生前の喘息や食品アレルギーが無いだけでも有り難いんだけどね。

あと重要なのは従業員証というかマスター登録というべきアイテムの発見だった。コンソールの脇にある腕時計型のBSコントローラーがそうらしいので登録して装着する。布巻きに腕時計という変態一步手前の格好だが、これで扉が開くし警備システムにも引っかかるからなる。

そしてとりあえず中央管理システムを切り上げて、部屋から出ることにした。いや、服が欲しいのよホント。いい加減なんか服着たいし、警備システムも見てみたいしということ、やっこの思いで部屋から出た。んだが……やっぱこの施設もヤバイわ。

扉に賞金首の零九式安全神話（MS2）が組み込まれているわ口ポポリス（MM）が何体も歩いてるわですっげえ怖いよ！！

BSコントローラー外したら襲って来るのかな……マスター登録してるから大丈夫だよね？

不安だ……そして早く服が欲しい。

四話目（前書き）

お気に入り登録をしてくれた方や感想を書いてくださった豚角煮様、
このような駄文に態々有難う御座います。

ネタか文章が頭から無くなるまでは頑張らせて頂きます。

夜勤の仮眠中に文章出し。

やはり文才が欲しい。

仮眠時間が無くなった。

夜勤明けで眠いのに打込。

文章に不安が残る。

四話目

「襲つてこないって解つていてもやっぱり怖ええなー」

とりあえず中央監視室から出て就業員用施設の探索の為、廊下を歩いているんだが……後ろからは扉の上にある零九式安全神話（MS2）の目が常に視線を合わせてるし、ロボポリス（MM）はすれ違う時にチラ見してる感じに動くし、かなり心臓に悪い。

20m位歩いた所で扉発見、プレートに【生産プラント監視所】と書いてある。扉には零九式安全神話もきっちり組み込まれているしでやっぱり怖い。入ろうかと思つたがまずは服を探すことにして後回しに、又廊下を歩き出す。

今度は数分歩いて【就業員諸室】のプレートが書いてある扉を発見、扉を開けようとするが開かない。マスター登録したのに何で？と思つていたら扉の横にカードリーダー発見……

ICカード持っていない……

どうやら警備システムが組み込まれていない扉はカードキー式のセキュリティらしい。仕方ないので此処の扉を諦めて、警備室を探すことに。

この施設を歩いて思つたのだが、【就業員諸室】から扉も見当たらず分岐が無い、唯一本道の通路が続いてる。複雑に成っていないことは有り難いのだが、防災上の理由なのかそれだけプラントが広いのか。広さだとすればかなり大規模な生産プラントだろう。

俺一人には持て余す施設だわ。

距離も解からない位歩いて、ロボポリスとも何十対とすれ違った所ようやくロボポリス以外の何かが見えた、どうやら新しい部屋らしき物だろう。やっと警備室かと思い近づいて行き、改めて警備の異常さを知ったよ。

セキュリティスフィア（MM3）二体とゴーゴンホール（MM2）ぱつと見て30体程が受付っぱい前の通路で蠢いてるよ。

うん、ここ何処のラストダンジョンだよ？しかも警備室の先にエレベーター見えたけどどう見ても人間用だよ、戦車入れないでこの規模だと絶対に死ねる。BSコントローラーは絶対に外さない様しよう。

受付が有るって事は、確認作業をする為の部屋が設置されているって事だろう。もしかすると此処が警備室か？結構歩いたなー思っただが全く疲れていない。

おかしいなーと思いシーツの位置をずらしてみたが、よく考えて

触ってみると全く汗をかいていない。当たり前だわ、機械に組み変わっているんだから。しかし戦闘用じゃなさそうなサイバーウェアでもこれ位なんでも無いのは素直に感動した。幾らなんでも距離も解らない位歩けば足は疲れるだろうし、年齢的にも腰に負担がかかる為に肉体疲労がかなり来るし。こりゃ戦闘用じゃなくても強い体だわ、なんか気分良くなってきたぞー。

そして考え事を終わらせて扉の前に立つ。扉のプレートに「警備監視室」の記載が有る、しかもカードリーダーは無し。いよいよ歩き回って下が擦れたシーツ巻きともオサラバだよ！！わくわくしながら扉を開けると

ヨージンボーグ（MM3）が目の前に突っ立ってた。

うん、怖かったんだ。すつごく。

シーツ外れてるのもお構いなしで四つんばいで逃げて扉締めました。扉から出たところでセキュリティスフィアに睨まれたような感じでこっち見てきました。素っ裸で何やってんだこいつ、って目で訴えてる感じでした。

ヘタレで何が悪い！！『玄関開けたらヨージンボーグ』なんて想像してねえし、あの面構えは怖いんだよ。

警備室入るの辞めようかな……シーツの加工を悩み始めた瞬間である。

五話目（前書き）

寝起きで投稿。

なぜか頭の中に浮かんだので投稿。

最後のモンスターは最初の転生候補

MSシリーズで5本の指に入る位好きな敵。

最後に現在装備記載。

五話目

「やっべえ……シーツ向こう側だ」

ヨージンボーグ（MM3）と目を合わせること無く、腰を抜かして黒歴史生産しながら廊下に戻り、セキュリティスフィア（MM3）とかの眼が無いのに侮蔑の視線を感じながら、スッポンポンで一人呟く。

このままでは裸のまま生活することになってしまおう、【就業員諸室】のカードキー探しも終わらないので、気合を入れて【警備監視室】に入る。

やっぱりヨージンボーグが扉の前に立ってました。しかし構えるだけで攻撃の気配が無いので置物か何かだと頭の中で反芻して奥に進む。

【警備監視室】の中には監視用のパネル、操作コンソール、壁にキーボックス、カーテンで区切られている区画にベット2台、ロッカー6個、それにトイレにシャワールームと小さいながら倉庫と円筒型のカプセルっぽい何かと、部屋自体は【中央管理室】より一回り大きい部屋だった。

個人的に嬉しかった事はロッカーもそうだけど、ベットが有る事だ。【中央管理室】のカプセルでは最初のパニックもあってか、此处では寝れそうにないと感じていたから非常に有り難い。何かしらの怪我と言つか体に損傷を受けたらあそこに行かなければいけないそうだけど……

そしていよいよロッカーの搜索に入る。これで裸一貫からはオサラバだと楽しみながらロッカーを開けて、中身の確認に入る。

ロッカーの中には下着一式が3セット、警備員用制服上下、防弾ベスト一着、ブーツ型安全靴にスタンロッド一本、それにシヨットガンが一丁とホルスター付きのベルト、大きめのウエストポーチが入っていた。服はMM式に言くとウルブルーとぼうだんチョッキって所かなー、とりあえず着替えて裸からは脱却できたので良しとしよう。

ウエストポーチに履かなかった下着一式を入れ、ホルスターにシヨットガンシエルと警棒を入れて防弾ベストを着こみ装備を終わらせる。一応他のロッカーを開けたが同じものが入っていたため今回は持つて行かないで予備として置いておく。

警備用のパネルは現在も警備システムが作動中なので操作するのではなく、システムについて調べる。ここの警備システムは所属警備兵とマスター登録したユニットか人物、又は此処のプラント所属のサイバーウェア以外の入館者を抹殺するシステムであるという。

物騒ってレベルじゃねーぞこれ、しかも俺がマスター登録しちゃったし、警備兵なんて居ないから俺一人以外は全員殺しますってことじゃねーか！！

いくら兵站生産箇所とはいえやりすぎにも程があるだろ。ノアより味方側を殺しそうなシステムだなおい。

警備システムはこれ異常調べても仕様が無いし、変更も不可能なので見るものは無くなった。あとは壁についてるキーボックス位か。

円筒型カプセルは調べても判らなかつたのでほつとく。キーボックスに鍵は無くICカードも此処しか無さそうなので開けてみた。

ロッカーキーの束と透明ケースの中にカード発見。両方共取り出してウエストポーチを開けた所

カプセルが開き、マイトガイ(MS)が腰に手を当てて登場してきた。

何でさ……しかも全く喋らないで仁王立ちしてるし……

神様は何がしたかつたんだ？わけわかんねえよ……

五話目（後書き）

現在の装備

武器

E：ショットガン

E：電撃警棒

E：

頭

E：無し

体

E：トゥルーパー

腕

E：無し

足

E：あんぜんぐつ

プロテクター

E：ばうだんチョッキ

道具

BSコントローラー おやじのパンツ？

ロッカーキーの束 ICカード（プラント）

六話目（前書き）

仕事中に考えてみた。

次の仕事も探さないと行けないのに。

やはり文才が欲しい。

マイトガイの立ち位置悩んでいます。

適当に決まるんだろうけど。

六話目

「……いや、何か喋ってくれ」

仁王立ちから動いて倉庫に向っていくマイトガイ（MS）に対しての率直な感想だった。

しかしなあ、俺の知ってるマイトガイとは少し違うんだよな。まず喋らないし、頭の爆薬も導火線なのかコードかは解らないが二本に分岐していて、その先にボタンが着いてる。アレはかなり危険だろー！しかも癖なのか左右に着いてるボタンの上をよく掻いてる。やっぱ自爆ボタンなんか？

少なくとも近づいたら巻き込まれて爆死確定だろうな、倉庫に行ってる間にさっさと逃げ出す事にしよう。何か倉庫でゴソゴソ探してるし、今ならいけるだろ。

【警備監視室】から出て【就業員諸室】に戻り始めるとなぜか後ろにぴったり付いてきやがった。って何でERAシールド構えたまままで付いて来てるの？しかもなんかシールドに+3とか書いてあるし。

こっちが振り向くとシールドに隠れるし、歩き出すとちょこちょこ付いて来る。付いて来るのが小動物とかなら萌えて可愛いんだろうけど、ムキムキマツチヨの爆弾頭が爆発反応装甲をこっちに向けて歩いてきても恐怖心しか出ねえよ。

つか、おかしいだろコレ。どう考えても不審者にも程があるだろ。

今までの警備は全部マシーン系で統一されてるのにこいつだけ正体不明だろうに。いや実際、種族も正体不明だけどさ。此処の警備システムは実はお飾りなのか？

悩みながら歩き続けて、後ろの物騒すぎるマイトガイも来なくていいのに付いて来て、【就業員諸室】の前に立つ。ん？そう言えばカードキーは一枚しかなかったよな……此処でカードキーを使って開けたあと、即座に閉めればこいつ入ってこれないじゃん！！

でも開けた後にアイツも直ぐに入りそうなんだよなー、どうしよう……そうだ、アイツはシールド構えて接近してるから、ショットガンをぶっぱなして怯んだ所でドアを閉めればいけるはず。大丈夫だ、きつといける。ショットガンを撃てば何でも解決する。其れが今の俺の考えだ！！

意を決して【就業員諸室】カードキーを開けて入る。

すぐさま振り返ってショットガンを構える。

そしてシールドに、ってあれ？アイツいねーじゃん。

後ろでまだちょこちょこ付いて来てる最中だった……意気込んだ意味ねえ！。

まずは扉を閉めよう。あの超危険物質の塊とずっと歩いて精神ガリガリ削られてたんだよねー。これで安心できるぜ。落ち着いたら【就業員諸室】内の探索に入ろう。どうやらここはオフィスと応接間、それにロッカールーム、シャワールーム、トイレ、小さいながらもキッチンまでついてるかなり広い部屋に成ってるし、相当時間かかるだろう。

まずはオフィス部の書類等の探索だが、碌なのがない。生産品目だ警備状況だのコンソールで調べた物や頭に入ってる内容のみで役に立たない。バインダーがあつたから将来は裏紙でメモ用紙確定だな。

次は応接間の探索だが、柔らかく座り心地のいいソファアが机を挟んで対面で置いてあるだけだった。そして机の上にダンボールが一箱。開けて見ることにすると、なんと自衛隊のカンメシこと戦闘糧食I型が満載に入ってるじゃないか！！

初食事ゲットに心躍り缶切りを探してダンボールのカンメシを机の上に開けていると、突然入り口の扉が開いた。

まさかアイツ開けたのか？と思い手にカンメシを持ったまま入口に向かうと、其処にはやはり居たよ……あの危険なマイトガイが。

しかも腕組みして立って動かないし。何で入れたのか聞こうとしたらイキナリ動き出して……

「……………あ、俺タクアン缶嫌いだから他のヨコセ。」

あゝあゝん、今何言いやがったコイツ。俺の好物侮辱したんか。

しかも第一声が其れかコラー!!とりあえず殴ろう。うん、話は其れが終わってからだな。

六話目（後書き）

ERAシールド（MSNF）

金属盾に爆発反応装甲（Explosive Reactive Armour）をつけたもの。

ソルジャー用装備だが＋3まで合成強化すると装備制限解放されて全職装備可能。

七話目（前書き）

風邪引きました。

しかも夜勤も重なった。

文才がほんとに欲しい。

そろそろ話を進めたい。

長文が書けない。

七話目

「はあ……なんでこうなったんだ」

現在、俺は対面に向き合ってカンメシをオカズにカンパンを貪り食ってる正体不明の物体を前に、どうしてこうなったかの確認をしよう。

「てめエ……第一声が俺の好物を侮辱するとはどう言う事だよ」

「いや、だってあれしょっぱい。しかも野菜だし、俺穀物以外食いたくナイシ」

「つーかさー、何で声掛けた時喋んなかったんだよ？」

「え、めんどかった、喋るのダルイ」

最後の一言でイラって来たので取りあえず攻撃をしようと思う。しかし頭に謎のボタンが2箇所もある上に、現在大事なカンメシを両手に持つてる状態では碌に攻撃が出来ない。

悩んだ末に脛を蹴る。軽くとはいえ安全ブーツの脛蹴りはかなり効くだろ。あ、なんか体制崩した、効いてる効いてると思ったら同じ行動をやり返してきやがった。

「何すんだよ、痛いじゃねえか」

「先にやったのお前ダロ」

「……お前が悪いだろ」

「お前ダロ」

「「……………」」

その後無言でお互いの脛を蹴りあうという子供のケンカみたいなのを暫く繰り返してから……互いに痛みが余り無い感じな為休戦して、このまま何もしないで立っていても仕方ないので、応接間まで行ってソファーに座り飯を食べながら話し合うことにしようとしたら、箱の中のカンパン食べまくって喋りやしねえ。

俺は確認の為と、ご飯が食べたい為に室内のキッチンへと向かってお湯の順備をする事に。

「あ、俺の分のご飯も湯煎しといてクレヤ」

ずつずつしいなこの爆弾頭。そんなことよりこの施設の従業員ス

ペースにライフラインが通っているか確認だしいとな。電気や給水が無いと生活なんて出来ないし。

キッチンに行き取り敢えず色々調べてみる。大型冷蔵庫二台に電気&ガスコンロ、ステンレスシンク、給水給湯蛇口、其れに調理器具一式まで有る。冷蔵庫内は何も入っていないかったのは残念だが、使用可能なだけで十分だわ。

給湯蛇口からお湯を出して鍋に入れ、カンメシを湯煎する。こうしないと食べれないしな。

十分温めたら取り出して応接間に持って行き爆弾頭に渡す。なんかそわそわしてるし、缶切りすっごい勢いで探してるよコイツ。まあいいや、俺もなんか食べよう。

そうして食事を済ませてから、目の前に居る爆弾頭と会話する予定だったんだが……コイツ大いびき掻いて寝やがった。しかも手を頭に当てて寝てるからボタン押しそうだし。

動かして爆発したら一巻の終わりなので、この危険物はほつといて残りのロッカールームの探索に入ろう。ロッカールームのロッカー全てに鍵が掛かっていたが、【警備監視室】のキーボックス内にあった鍵束で全部開錠出来た。

ロッカー内にあったのは道具中心で装備品は無く

回復ドリンク？10一箱

回復カプセル？12一箱

エナジーカプセル？6一箱

オイホロカプセル1瓶約30個入

といった基本的な回復系アイテムが中心で、

其れ以外の道具は

ゲンキデルZ2本や

ヤらしいポスター5枚

ベースボールカード30枚

ハツモータ2本

メカニックキット一箱

最後にわんわんグルメがなぜかロッカーにびっしりと詰まっていたりと道具はかなり入っていた。

かき集めた道具はロッカールーム内のキャリーに乗っけて応接室に置いておく、今は使用することもないだろうし。

シャワールームやトイレは調べる必要が無いのでほっといて【就業員諸室】の探索は終了。応接室の爆弾頭はそのまま放置して退室して、最後に【生産プラント監視所】に向かう。

【生産プラント監視所】に向かう最中に、又後ろから爆弾頭がERASHIールド構えたまま付いて来るが無視だ無視、あれに関わるとめんどくさそうだし。

かなり歩いた所で【生産プラント監視所】に到着。警備システムが怖いけど、コンソールを操作して扉を開ける。マスター登録してから最初の入室の為、暫くお待ち下さいとの画像表示が。早く開いてくれ、アレが来ちまう。

爆弾頭が到着してから設定完了の表示が……遅いよ。どうせ入れないだろうと思うのでドアOPENに設定、設定したらスピーカーから合成音声が届いてきた。

「登録完了シマシタ、プラントマスター、プラント警備兵『マ・イトガイ』ノ入室ヲ認メマス」

お前警備兵だったの!!!しかも区切り其処なの?更に何で入れるんだよ!!!

ツッコミ疲れてきた……俺も寝ようかな……

七話目（後書き）

アイテムは名前から解りやすい道具を選んで見ました。

オイホロカプセル

これを服用すると痛みを感じなくさせることが出来る。

八話目（前書き）

夜勤明けで再就職先確定

落ち着いたので投稿。

酒は友人と自分の酒棚の種類を全部。

最後のは自分の仕事のお気に入り。

チートっぽい全部出せました。

八話目

「これは……凄過ぎる、如何しろと」

プラントのマスター登録も終わり、爆弾頭改め「マ・イトガイ」がまさかの警備兵だったのは吃驚したが、プラント監視所に入室してプラントを見て呆然とした。

中央監視室から警備室までかなりの距離が有ったので少しは想像していたけど、想像の範囲を軽くすっ飛ばした後景が広がっていた。

プラント全体は2階層で構成されて、監視所は上層にある全面透明の亚克力パネルの部屋になっていた。部屋には入口脇にリフトが設置して有り下層に降りれる仕組みになっており、入って少し歩いた所にコンソールパネルが設置してあった。

下層には農地が一面に広がっており、かなりの農地面積が有ると思われる。上層から見ただけでも作物が何品が見えるが、おそらくこれだけではないだろう。此処でカンメシを生産していたのなら、畜産や資源採集もやっているだろう。

此処から見てもどうなっているかは把握出来ないだろうから、室内のコンソールを操作してみた。いや、もう驚きを通り越して呆れたよ。

先ず2階層だと思ったら実は4階層で、下にもう2層生産地があり、生産しているのでも各種穀物、野菜、果物に鳥、豚、牛、羊の畜産、それに魚も馴染み有る種類の養殖、さらに穀物や果物で酒の生産までしている。後は生産補助や梱包用の為に金属、紙、布、化学工業まで生産している一大生産プラントだった。

中央監視室で調べた情報だと食料生産プラントだったのに、細かく調べたら実は生活必需品全て作れるという巨大なプラントだったのには呆れるしかないわ。流石に生産補助品は素材が決められた状態でしか生産できないけど、布がそのまま出ただけで服が作れるし、うまく頭を使えば何でも出来そうだわ。

調べ物も終わり、最後にメニュー画面に戻ると一番下にマスター登録の項目発見。此処まできたらもう全部やっちまおう、ということとでマスター登録をするとBSコントローラーから登録音が。BSコントローラーを使用すると、プラントマスター全登録完了の画面表示が。

新しく生産管理、倉庫管理、搬出管理の項目が追加されていた。どうやら態々此処まで来ないでもBSコントローラーで全部出来る様になった様だ。と不意にずっと行動を見ていた「マ・イトガイ」が話しかけてきた。

「なあ、オマエ其れ倉庫見れるんだろ？」

なにをいき成りと思ったが危険な奴なのでとりあえず答えること

にしよう。

「あ、ああ。倉庫管理の項目有るから見れると思うけど」

「おオ！！んじゃ酒クレ酒。度数低いので良いカラヨ」

まいったな……生前は病気持ちの弱ツクな体だったから呑んだ事無いんだよなー、食料運搬が生前の仕事だったから種類は解るけど度数なんか知らんし。酒の種類は品目見せてから渡すことにすればいいか。ついでに搬出場所も教われそうだしな。何よりシールド構えて寄ってくるから怖いんだよコイツ。

「まあ、マ・イトガイさんだっけ？渡すのは良いけど、品目見せたら搬出先を教えてくださいよ。この施設の地図なんか無いから解んないんだよ」

「おお、任せ口。搬出口は警備奥のエレベーターで上がった所のベルトコンベアーから出るンダ。其処にBSコンで搬出管理の項目から搬出を選んだのが出るンダヨ。あとイトガイの呼捨てでいいゾ。酒をくれるなら保護対象としてもマスターとしても言うこと無いシナ」

「酒の話から急に饒舌になったなお前。まあいいや、んじゃイトガイ表示ホログラムで出すぞ」

BSコントローラーで倉庫管理の項目から酒の項目を選んで表示する……表示した瞬間イトガイが謎の笑い声を発しやがった。

なんか隣でずっとグフェグフェグフェ言ってるんで怖すぎるんですけど……

酒品目一覧

葡萄酒

ワイン

ブランデー

グラッパ（粕取りブランデー）

サトウキビ

ライトラム（ゴールド、ホワイト）

ヘビールラム（ダーク）

カシャーサ

リンゴ

シードル

カルヴァドス

さつまいも

芋焼酎

そば

そば焼酎

米

日本酒

米焼酎

さなぶり

早苗饗焼酎（粕取焼酎）

大麦

エール

ビール

モルトウイスキー

トウモロコシ

ストレートバーボン

コーンリカー

ライ麦 小麦 大麦 馬鈴薯 甜菜

ウオトカ（スタリーチナヤ）

スピリトゥス

その他

他果実醸造酒

果実酒（梅酒等）

消毒用エタノール

無水アルコール

……多すぎねえかこれ？酒だけで品目有りすぎだろ。つか消毒用エタノールは酒じゃ無いだろうと考えても。

酒だけでこれだけの品目が有るとすると、他の食料品は一体何品有るのか解らんな。しかも加工品の項目が有ったから何百品目も有

りそうだぞ。個数も4桁5桁がザラに有るから無くなる事も無い上に現在尚生産中と……

隣のイトガイから声が聞えなくなったな、如何したんだ一体？と思ったらいきなり俺を俵持ちして部屋から出やがった。しかもさつきとは比べ物にならない位の速さで走ってる。

「おい！！何しやがる！！いきなり如何したんだイトガイ」

「ヒヤッハー！！酒ダー！！アルコールが俺を呼んでるぜー」

「は？つて早い早い！！つて首がガクガク逝ってるつて。速度落とせー」

「酒さえあれば爆発してもイイ！！いや、むしろ爆発させろ！！つてエレベーター来たナ」

「いやいやいやいや、爆発するなら酒ださねえよ。つか上に上がる心構えさせろよコラ」

と言ってる間にエレベーター到着、そのまま力ゴ内に投げ込まれた。イトガイも中に入り、ボタンを押して扉を締めエレベーターは上がっていった。ボタンはB1FとB2Fしか無い。つまり生産プラント内はプラント内のリフトで移動、従業員はこのエレベーター、んで残りは搬出時に使用するリフトって所か？一本道だけど結構めんどくさい構造だ。

エレベーターに乗って5分位経過してB1F到着。B2とB1間
はかなり時間が懸かった事から相当深く地下にプラントが在るのだ
ろう、昔50階建の建物に商品搬送した時のエレベーターが其れ位
だった記憶が有るから100メートル以上は確定だな。

どうやら隣の危険物も落ち着いた様子で何よりだ。二人共エレベ
ーターから降りて先に行こうとしてるイトガイを止めて少し話をす
る。ホールと言うか個室状態に成っている為、此方が少し落ち着く
ためにも丁度良いし。

「なあイトガイ、この先はどうなってるんだ？行ったこと無いか
ら不安なんだが」

「あ、この先は搬出コンベアーと搬出口、ガレージで区画された
先に地下駐車場と車用リフトが在るだけでビルの1フロアに成って
るだけダゾ」

「そうか、アリガトよ。あと警備システムはどうなってるんだ？」

「警備システムはB1Fまでが管理区分ダナ。ガレージ及び車用
リフトはプラント従業者以外は使用出来ない様に成ってルゾ」

と言うことはまだ安全区画なんだな。よし、其れじゃイトガイも
そわそわしてるし荷物搬出もやってみたいしさっさと行こうと扉を
開けたら……嬉しくて俺が叫び声あげちまった。

生前に最期まで乗っていた俺のトラック（いすゞエルフ5代目・低温冷凍車）が武器を装備してコンベアーの前に置いてあったから！！

アリガトー神様。あの爆弾頭は要らんケド、これは最高のプレゼントだぜ！！

車も装備も整った。引きこもる準備は万端だな。

八話目（後書き）

車（戦車）の装備で悩んでいます。
テクニカルだから主砲は無し……
物足りないか？

九話目（前書き）

二連休丸々使って作成。
文才がホントに欲しい。
今回でいよいよ危険区域に。
MMやMSらしさが出るよう努力します。

九話目

「唯の冷凍車なのにどうしてこうなった……」

目の前のに在る仕事で使ってた車を調べて思わずつぶやいてしまった。

俺のいすゞエルフ5代目を見て思わず叫んでしまい、イトガイもビビっていたがそんな事は無視してダッシュで駆け寄り運転席に向かったが少しおかしい。荷台が大きく成っている、一回り位デカイのだ。荷台は二トンしか入らないのにこの大きさはおかしいと思いつつ、運転席に乗り込み確認作業をした。運転席には見たこと無いスナップスイッチが何個もあったが、其れよりも運転席に置いてあったバインダーに挟まっている書類を見て、起きてから何度目かもう解らない驚きで一杯だった。

書類の一枚目には車の装備スペック、二枚目には建物の構造、三枚目には文章が書いてあったのだが一枚目でもう驚きと呆然とが同時に出的感じだった。

車体

いすゞエルフ5代目低温冷凍車改（冷凍機不良）車体重量 6.5
0 t

エンジン

フェノミナン? 2 (搭載 55 t? 2) 重量 0・01 t? 2

Cユニット

SOLOMON 2? 重量 2・00 t

武装

穴 1 (運転席上部) スマッシュホルン超改造済 (重量 4・68

t)

穴 2 (冷凍庫上部) アサルトレーザー超改造済 (重量 17・1

6 t)

穴 3 (冷凍庫右側) ひばたんバルカン無改造品 (重量 0・10

t)

穴 4 (冷凍庫左側) ひばたんバルカン無改造品 (重量 0・10

t)

……なんじゃこりゃ

……搭載総重量 110 トンで武装コミコミで 30・56 t って事は、残り全てで搭載すると搭載重量 69・44 t……装甲 6000 足しても 9 トン搭載可能、しかも武装は主砲を遙かに上回る副砲 2 門でおまけにバルカン 2 門。エンジンもそうだけどひばたんバルカンって有り得ない程の化物戦車に成ってるぞこれ。

この車の装備は一応確認完了として、二枚目の書類を確認する。
この建物の構造が書いてあったが、なんとも不安を抱く内容だった。
この建物は地下六階地上四階建ての装甲ビルでB1Fまでは完全管理されていたが、それ以降上層の1Fから4Fまでは基本管理区分外なので何もしていない。一階の車載リフトが在る一部区画は管理しているが、他の区画となるとかなり荒れていそうだ。

三枚目の書類は神様メモだった。内容はこの体の詳細でやはり戦闘用サイバーウェアではないが、戦闘用の2分の1程度の身体能力との事。レベルで言うところ40位か？これ以上強くなることもできないが十分強い体でかなり満足だわ。他は知識、技術として修理や改造その他生活スキルを入れてくれた事、あとは自分のミスでこの世界に送って済まないと改めての謝罪、この建物と車の改造以外はこの場ではこれ以上与える事はできないが、他にも施設があるから第二の人生頑張れとの激励だった。

唯のおっさんに此処までして戴いた感謝の気持ちを胸にいだいて、運転席から降りて近場に在るコンベアーに向かう。コンベアーの前ではイトガイが体育座りで此方をずっと見ながら座っていた。顔は無いんだがなんか雰囲気で悲しい気持ちっぱいのが解る。そんなに酒が欲しいのかコイツ。

これ以上待たせるのも悪いし、搬出もやってみたいからさっさと酒と取り出すか。って何が欲しいか聞かないとな。

「おう、イトガイ。飲みたい酒は何なんだ？」

「ああ、スピリトゥスと無水アルコールの二種ダナ。あとは何か

食いもん在ると最高ダナ」

「いや、無水アルコールは酒じゃねーよ」

「いいんだヨ。高濃度アルコールが欲しいンダ」

まあ本人が欲しいんなら何も言うまい……BSコンで操作して酒二種を取り出す、って両方共3個でいいか。コンベアーが動き出してスピリトウスと無水アルコールが出てきたっておい！！スピリトウスは6本で1パックの薄いアルミ製取っ手付き一箱だし、無水アルコールは17リッターポリタンクで出てきたぞこれ。

隣からブツブツ呟いてる声が聞こえるので横を向くと、イトガイが「酒が浴びレル…酒が浴びレル」とずっと喋ってやがる……怖ええよコイツ！！

出てきた品物は流石に持ち切れないので車の荷台に入れる事に。食べ物には適当に直ぐ食べれるカップラーメンを2つ生産、予想してたが24個入り一箱が一個だったのでラーメン二箱も荷台に。あとは品目に水もあつたので水を多めに10個生産、それとお湯作成の為生産補助品の設備品目に電熱器があつたので生産。出てきたのは透明のポリタン10個、それに少し大きい持ち運びはし辛い電熱器が出てきた。

これで一先ず一階の探索の下準備が出来たので、乗車して車のエンジンを入れて動くか確認。問題は無さそうだし基本的な運転方法は変わらずで何よりだ。ついでに電熱器が車に付いてる電源で作動するか確認して問題が無いので電熱器も荷台に入れ、準備完了。降車してガレージに行き開閉操作を調べるがパネルすら無いので開閉

方法が判らん。仕方ないのでコンベアーの前でまだ正気を取り戻していないイトガイの背中を蹴り正気に戻す。

「イトガイ、ガレージの開閉方法教えろ」

「……ハッ、俺の酒ハ??」

「このビルの探索が終わったらやるよ。だからガレージ開閉操作教えろ」

「開閉操作も何も近づいたら登録者搭乗車両は自動で開クゾ」

「??近づいたけど開かなかったぞ」

「ガレージは重量感知式ダゾ。人はあっちの扉からダゼ」

イトガイが指さした方向を見るとエレベーター室の横に扉を発見、車に夢中で全く気が付かなかったよ。まあ今回はイザという時の為に車でいくけど。イトガイと車に乗り込みガレージの前まで移動、前まで行くと自動で開いていった。

ガレージから先は大型駐車場になっていて、やはりヨーシンボグ（MMM）やロボポリス（MM）がウロウロしていたがほっといてリフトに向かう。何事も無くりフトに到着して乗った所でBSCコンから又音がした。項目に車用リフト操作が新しく出現。操作していいよ一階へ。

一階は他のフロアと違い薄暗く余り長居したくない感じだった。周りを見渡すとゴーゴンホール（MM2）が床や壁から出ているので此処は安全区画だろうと思い降車して少し調べることに。一応シヨットガンを構えつつ調べる。

リフトは部屋の一番奥にあり、その先の反対側にガレージがあった、と言うことは此処は車両入口か？ガレージから恐らく外に出れるのだろう。マツつつつつたたく外に出る気は無いが。他にはリフト近くの右側に扉が在るだけで他に設備は無く、床に壊れた生活用品や紙くず、鉄パイプや破れた袋などといったゴミが在るだけだった。

イトガイは車から出ることは無く、助手席でガタガタ震えてるだけだった。移動方法といいかなりのビビリ屋なんだろうな。怖がっているのを無理に連れ出すのも悪いし、其のままにして扉の先に向かう。

扉の先は幅1.5m位の通路になっており床や壁からゴーゴンホールが出ていたので安心して通路を進む。少し歩いて通路の半分位の所で黄色と黒のトラテープが通路全面に貼っており、其処から先はゴーゴンホールが一体も出ていない。その先から安全区画じゃなくなるのか……イトガイに居て欲しかったが仕方ない。

意を決して先へ進み突き当り右側の扉の前へ。シヨットガンの弾を確認して扉を開ける。開けたフロアに出た。車庫より少し明るい感じがするな。扉の近くに柵が横になって置いてある、バリケード

みたいな感じだけど高さにカウンターにも見えてどっちなのか判らんな。

開けた所なので他に何があるか解りやすい。向こう側の壁までの間に両開きの扉って事は入口だな。他は入口の前突き当たりにエレベーターが突き出ている、エレベーターの両横に階段、これしか設備はないのか、地下に比べると何も無いな。

動く物は何も無いのでモンスターは見た感じ居ないが、慎重に進み入口に到着。内開きのドアなので片側だけ開けてみると瓦礫しか見えない。此処から外に出るのは不可能っぽいな。一応締め直すかと思ったら瓦礫で閉まらない、仕方ないので閉めれるだけ閉めて放置する。

少し不安になりながらエレベーターに向かうとどこかで音がする…… 周りを見渡すが何も見当たらない。瓦礫から何かが侵入したのか？もう一回ショットガンの弾込め確認をして、周りを確認するやはり何も見当たらず。かなり不安になりつつエレベーターへ向かう。

エレベーターは扉が開いており、中にカゴが無い状態だった。一応モンスターがエレベーター内に居ないか確認。何も見当たらないがどこからか音がする。入口を確認して何も居ないのを確認、警戒しつつ階段に向かう。階段の前に立ち、後ろから物音がしたので今度は通路扉側を確認するが何も見えない……と、突然後ろ側から聞いたこと無い叫び声が！！

階段だった物に目と口が出てきて襲いかかってきた……!! ってコイツはっ!! きゃ たっラー (MM2) か!!

この世最初の戦闘は不意打ちから始まりやがった。間近で見ると怖すぎる……!!

九話目（後書き）

フェノミナン（MM3）

冥界エクスプレスのドロップ品

武装はMM3の超改造品にしました。

副砲全体攻撃で1500近くは正にチート品

SOLOMON2?の?はネタが続けばこの先明らかに。

十話目（前書き）

新職場でいきなり利き腕を怪我してしまい通院してました。
そのせいで片手使用が殆ど出来ず投稿できませんでした。

態々お気に入り登録をしてくださった方々申し訳ございません。

治ってからはMM2Rをプレイ。

まさかのきやたつラー賞金首化！！

執筆にかなりの影響が出てしまった……

そしてアクセス1万超にびっくりしました。

さらにMM小説も増えて嬉しい限りです。

リハビリを兼ねての投稿のため文字数が少ないと思います。

今回かなりのグロ表現があります。

グロ耐性がない人はご注意ください。

十話目

「チクシヨウ、全然倒れねえ!!」

きやたつラー（MM2R）からの攻撃を躲しながら手持ちのショットガンを撃っていく。しかし此方の攻撃をお構いなしに突っ込んで行き、噛み付き攻撃や体当たり更にはガスや強酸を吐き出してくる。幸いにもガスに関しては耐性があるらしく、吸い込んでも影響が全くない事に気が付いた為そちらは無視出来る。だが当たった側から瓦礫や周辺に散らばるゴミを溶かしていく強酸や、瓦礫を噛み砕く噛み付き攻撃は食らったら対応策が何も無い為にかなりの劣勢になっていた。

しかも幾らそこその性能を持つサイバーウェアとはいえ、中身は齡40位のオッサン臭漂う一般市民な為に戦闘など当然したことはなく、幾らショットガンを撃ってもなかなか思い通りの場所に当たることは無かった。更には最初にテンパッてしまい、最初の攻撃で弾を撃ち過ぎて残弾数が装填されている5発のみに為ってしまった。

「ゲームみたいにショットガンの弾が無限なら良かったんだがなあ……どうしようも無いよなこりゃ」

半ば第二の人生の終焉を自覚しつつ、ショットガンから警棒へと手持ちの武器を変更する。接近戦なんて自殺行為にしか感じないが、このまま何もせずに死ぬ気が無いので限界まで生き汚くしてやると思いつながら警棒を手に、噛み付いてきたきやたつラーをカウンター気味に殴りかかろうとした。

しかしそんな素人考えの攻撃なぞ当然気が付かれていて……アツサリと攻撃を躲されて、警棒を持っていた左手の二の腕から手首にかけてを噛み付かれてしまった。しかも噛み付きに成功してから何回も左腕を噛み続けたてきた。

「イツテエエエエってナニしやがるダ此のボケエアヤガアア
アクソウエエエアア」

どうやら痛覚が在るらしくかなりの激痛が左腕から伝わり痛みで絶叫してしまう。しかしその時取り外そうとして右手を振り回していたら、偶々きやたつラーの片目に右手が入った。更には訳が解らなく本能のままに動いていたのか、目の中で右手を動かすというグロテスクにも程がある行動を無意識にしまっていた。

右手の行動によりきやたつラーも大声で絶叫して、そして左腕から口が外れ互いに叫びながら離れていく。離れた先で自分の左腕の

状態を確認するが、全く動かない上に歯が刺さった所から電気スパークを起こしていた。更には接近戦用の武器だった警棒も見当たらず、残弾数の少ないショットガンしか武器が無い状態である。只でさえ両手で撃つても当たらないショットガンなのに片腕ではどうしようもなく完全に対抗手段が無くなってしまっていた。

きや たつラーは離れた先で片目で此方を睨みつけ、また噛み付き攻撃する雰囲気を出していた。そして歯をガチガチ鳴らしながら此方に突っ込んできた。

今度は狙いを頭部に定めたらしく、少し飛びながら噛み付き攻撃をしてきて互いの位置が1m位になった所でいきなりきや たつラーが爆発した！！

いきなり何が起こったのか判らなかったが後ろから物音がした為、後ろを振り向いてみると爆発物を矢に括りつけた弓（ダイナマイト弓矢 MM2R）を構えて敵に目掛けて放ちまくる危険物が叫んでいた。

「ママママ待たせたたたたナ、おおお俺の酒の為イミヤ助けてやるジョオオオオオオ」

ガタガタ震えながら、吃りつつ嘔みまくりで全くカッコつかないムキムキの危険物が其処に居た。

動機が不純すぎるがビビりまくりでも助けに来てくれたのには心から感謝するぜイトガイ！！

十話目（後書き）

噛まれた時の絶叫は実際に自分が怪我した時の映像を見た時に最初に叫んだ物です。あの叫びを自分で聞いて笑ってしまった為今回の叫び声にしました。

きやたつラー（MM2R）

今回発売されたMM2Rで賞金首にまさかの昇格。

噛み付きに会心の一発が多い

更に酸や睡眠、増殖までする為MM2の感覚で行くと全滅の可能性が在る。

実際作者は睡眠から噛み付きコンボで全滅しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1350y/>

カオスにも程がある大破壊後

2012年1月14日17時01分発行